

一般研究集会（課題番号：29K-03）

集会名：複合連鎖災害への対応力のある減災社会の形成を目指す防災ネットワーク形成のための研究集会
(防災計画研究発表会 2017/防災計画ワークショップ 2017)

研究代表者：高木 朗義

所属機関名：岐阜大学 工学部

所内担当者名：畑山 満則

開催日：平成 29 年 9 月 15 日, 16 日 (防災計画研究発表会 2017)

平成 30 年 3 月 5 日, 6 日 (防災計画ワークショップ 2017)

開催場所：京都大学防災研究所 (防災計画研究発表会)

熊本大学 (防災計画ワークショップ)

参加者数：【防災計画研究発表会】：48 名 (所外 42 名, 所内 6 名),

【防災計画ワークショップ】：21 名 (所外 20 名, 所内 1 名)

・大学院生の参加状況：【防災計画研究発表会】9 名 (修士 7 名, 博士 2 名) (内数)

【防災計画ワークショップ】4 名 (修士 3 名, 博士 1 名)

・大学院生の参加形態：【防災計画研究発表会】[発表者 0 名, 運営補助 3 名, その他は聴講参加]

研究及び教育への波及効果について

本研究集会は、産官学からの参加者が、防災・減災に関する課題に理論的、実践的にアプローチした際のプロセスを重視した研究発表会である。本年度は、防災研究所での発表会に加え、震災後 2 年を迎える熊本で地域住民を含めたワークショップを開催した。復旧期を経験した研究者および住民の経験、知見の集積を図ることで新たに露見された災害対応の課題を認識することにより防災研究のすそ野を広げる効果が期待できる。

研究集会報告

(1)目的

災害対応・復旧・復興から防災・減災に関する今日的課題は多岐に亘りかつ複雑であるため、様々な分野の研究者が相互に知恵を出し合い連携しなければならない。本発表会では、災害復興や地域防災に携わる土木、建築、情報、社会心理などの研究者やコンサルタント、国・自治体の実務者、地域防災団体や NPO 活動家が一同に集い、実践的・理論的な研究・活動発表と様々な視点から討議し、災害対応・復旧・復興や防災・減災に関する課題解決や今後の展開について議論する。熊本での開催は、熊本地震で再構成された防災ネットワークを実空間上に広げることを目的としており、熊本地震後の復旧・復興期に襲った水害・土砂災害といった複合連鎖災害に立ち向かうための方策を現地で議論することを目的とする。

(2)成果のまとめ

本研究会では、阪神・淡路大震災以降の災害の復旧・復興活動を通して立ち上がった NPO やその支援研究者、国際総合防災学会に所属する国際防災実践を行う研究者に加えて、L2 レベルの超過外力災害の影響

が懸念される地域の行政や研究者も参加した。京都に加えて被災地である熊本でも開催することで、熊本地震により新たに生まれた課題意識に立ち向かうための知識の共有を図ることができた。特に本年度は被災地域住民が中心となって活動する未災地への災害教育に関する意見交換を通して今後の防災教育、それを踏まえた防災計画への反映するための示唆を得ることができた。研究と実践を結び付ける活動という意味でも社会的意義は極めて大きい研究集会であった。

(3)プログラム

===== 防災計画研究発表会 =====

【9/15（金）】

- 1 (13:00～13:15) オープニング
- 2 (13:15～13:45) 「災害リスクと集積の経済性を考慮した交通基盤整備の影響分析及び便益計測に向けた検討」
神戸大学大学院 工学研究科 足立鷹祐, 織田澤利守
- 3 (13:45～14:15) 「港湾の防災投資に関する一考察」
国土交通省国土技術政策総合研究所 赤倉康寛, 佐々木友子
港湾空港技術研究所 小野憲司
- 4 (14:15～14:45) 「平成 29 年九州北部豪雨における福岡県災害対策本部での情報支援」
防災科学技術研究所 水井良暢
(14:45～15:00) 休憩
- 5 (15:00～15:30) 「多様な学びを生む場のデザインに関する研究ー熊本できるしこ学ぶ会の取り組みー」
熊本大学熊本創生推進機構 政策総合研究教育センター 田中尚人
- 6 (15:30～16:00) 「「避難所初動運営キット」開発の背景と用途について」
熊本大学大学院 先端科学研究部 竹内裕希子
- 7 (16:00～16:30) 「災地域の防災団体の立ち上げと継続に必要なもの -美濃東部防災力強化ネットワークのケーススタディ-」
岐阜大学 小山真紀
清流の国ぎふ防災・減災センター 岩井慶次, 村岡治道, 高木朗義
(16:30～16:45) 休憩
- 8 (16:45～17:45) 全体討議
岐阜大学工学部 高木 朗義・京都大学防災研究所 畑山 満則

【9/16（土）】

- 9 (9:00～9:30) 「震災後の避難者数の推定と避難期間の規定要因」
長崎大学水産・環境科学総合研究科 吉田護
熊本大学 社会環境工学科 柿本竜治

京都大学防災研究所 畑山満則

- 10 (9:30～10:00)「災害支援と情報システム -技術と運用の間を埋めるために-」

京都大学防災研究所 畑山満則

- 11 (10:00～10:30)「防災科研クライシスレスポンスサイトによる災害情報の集約と利活用に関する取り組み」

防災科学技術研究所 佐藤良太

(10:30～10:45) 休憩

- 12 (10:45～11:15)「自動車利用率が津波避難のリスクに与える影響のモデル分析」

東北大学大学院工学研究科 竹居広樹

東北大学 災害科学国際研究所 奥村誠

- 13 (11:15～11:45)「重要拠点間の連結に着目した大規模災害時のための道路網脆弱性分析」

岐阜大学工学部 杉浦聡志

- 14 (11:45～12:15)「製造業の取引関係に東日本大震災が与えた影響について」

京都大学大学院 情報学研究科 黒田望, 藤井将大

京都大学防災研究所 多々納裕一

(12:15～13:30) 休憩

- 15 (13:30～14:00)「道路システムのレジリエンス」

京都大学防災研究所 多々納裕一

- 16 (14:00～14:30)「被災地に迷惑をかけない物資の送り方」

株式会社ピーアイ物流企画 伊藤秀行

- 17 (14:30～15:00)「アプリ「減災教室」による「わかる」→「できる」の実践」

岐阜大学工学部 高木朗義

一般社団法人 Do it Yourself 東喜朗

(15:00～15:15) 休憩

- 18 (15:15～16:15) 全体討議

岐阜大学工学部 高木 朗義・京都大学防災研究所 畑山 満則

- 19 (16:15～16:20) クロージング

===== 防災計画ワークショップ2017 =====

【3/5 (月)】

- 1 (9:00～10:30) セッションA:「災害調査の体系化に向けてー熊本地震からの示唆ー」

森啓明 (岐阜大学): 災害調査の体系化に向けて

- 2 (10:45～12:15) セッションB:「熊本地震における災害調査を振り返る」

柿本竜治（熊本大学）：熊本地震住民アンケート調査について
辻泰明（熊本大学）：熊本地震に関する学術調査の状況について
黒肥地雄太（熊本大学 M1）：熊本県職員アンケート調査について
田代敬大（崇城大学）：熊本地震総合調査の体系化について
山田誠（鹿児島大学名誉教授）

- 3 (13:30～15:30) セッションC：「災害の経験を未災地に届けるために」
田中尚人（熊本大学）：益城町「記憶の継承」事業について
竹内裕希子（熊本大学）
徳永伸介（熊本クロスロード研究会）

- 4 (15:30～17:00) 全体討議

【3/6（火）】

- 5 (9:00～11:00) 益城町視察
6 (13:00～16:00) 南阿蘇村視察

(4)研究成果の公表

<http://dimsis.dpri.kyoto-u.ac.jp/IPwiki/index.php?forum2017> にて概要を公開中